



# 大野

大野小学校 学校だより

19号

令和3年 2月16日(火)

校長 伊東 敏勝

【教育目標】 ・かしこく ・やさしく ・たくましく

◇ 今年度の重点目標 「いっしょに考えよう 進んで挑戦しよう」

〔笑顔あふれる大野小〕

## お見舞い申し上げます

2月13日(土) 23時8分福島県沖(相馬沖と思われます)を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、相馬市など4市町で震度6強の揺れとなり、皆様のお宅でも家屋、家財、塀等被害がありましたこと、また屋根瓦に被害があった方々にはこの後の雨でさらに被害が広がりましたことを拝察し、心よりお見舞い申し上げます。特に相馬市でも黒木を始めとする大野学区は揺れが大きかったようです。



学校でも校庭に地割れが入ったり、児童ロッカーの物がとび出したりしました。また体育館では揺れで天井の埃が落ちてきて、床が真っ白になったり、照明が故障したり、ギャラリー手すり周辺のコンクリートが落ちたりしました。今後は被害の状況を考慮し、安全対策を講じて教育活動を行っていきます。



10年前と違って深夜のため恐怖心に駆られましたが、東日本大震災と比較して今回の地震は、地震の規模のマグニチュードが小さく、震源が深かったということで、津波が来なかったそうです。しかし、震源が近かったため、東日本大震災の時よりも大きな揺れを感じた方もいらっしゃるかと思います。また、建物の倒壊が少なかったのは、揺れの周期に関係するそうです。今回は、揺れの周期が短かったため、家屋よりも電柱などが傾いたりしたそうです。余震は続いております。まもなく東日本大震災から10年を迎えますが、今後10年は余震が続くそうです。今回の逆で、震源が遠くで浅い場合の「アウターライズ地震」と呼ばれるものは、揺れは大きくなくても、大きな津波が来る場合があるので、警戒が必要とのことです。

災害が起こるメカニズムと防災についての学習の大切さを改めて感じさせられました。

# 心のケアを

東日本大震災を経験しているのは4年生以上ですが、当時1, 2歳で記憶にはないと思います。しかし、私たち大人が当時の恐怖が残っているように、今回の激しい地震に、子どもたちは恐怖を感じていることと思います。そこで、子どもの心のケアのために次のようなサインがありましたら学校に相談いただき、状況によっては関係機関につなげていきたい思います。

相馬市には、東日本大震災後「相馬フォロアーチーム」というカウンセラーが常駐し、さらには心療内科につなぐ体制が整っております。いつもと違う子どもの言動が気になるときは、まずは学校にご相談ください。

## 【行動の変化】

- 学校に行きたがらない
- 学習への意欲が乏しくなる
- 家族に反抗的になる
- 些細な物音に驚く
- 一人になるのを怖がる

## 【体の反応】

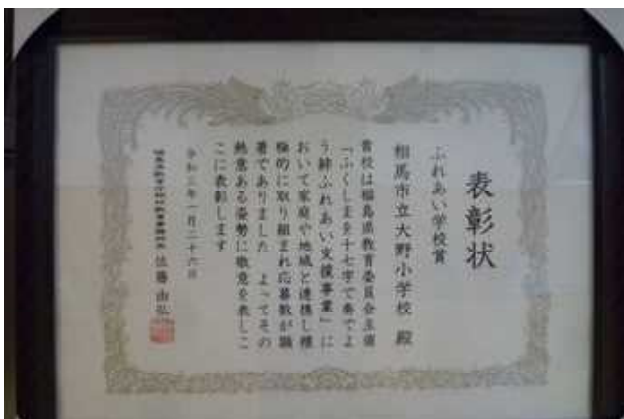
- 食欲がない、偏食になる
- 眠れない
- 夜尿が始まる、増える
- チックがでる

## 【表情や会話】

- 些細なことでもなく
- 元気がない
- 笑わなくなる
- 喜怒哀楽が激しい、あるいは無表情になる
- 一方的に話し、会話が成立しない



# 学校賞をいただきました



## 『ふれあい学校賞』

「ふくしまを十七文字で奏でよう絆ふれあい支援事業」におきまして入賞者をご紹介しましたが、今回学校賞をいただきました。夏休みを使ってご家庭の皆様のご協力によりたくさん応募していただいたおかげです。

## 『奨励学校賞』

福島県書き初め展において、子どもたちが練習し積極的応募したからです。そこにも保護者の皆様の教材購入のご協力があったからです。誠にありがとうございました。

# 小数のわり算



4年生は、難しい単元の1つである『小数のわり算』を勉強しています。今回はあまりを出すのではなく、割り切れるまで計算します。計算したいも難しいですが、小数点がどこにつくかというのもポイントです。

また、ここでは「○は△の何倍？」という問題では、どちらがもとになるかで、式を立てることも大切な勉強です。問題の進み方で帽子の色を変えて、立式や計算に取り組んでいました。

# 福島県の緊急対策期間終了

14日（日）で県独自の緊急対策期間が終了しましたので、ご案内の通り授業参観を実施させていただきます。

## 一口メモ

令和3年の祝日（カレンダーと変わります）

海の日	7月22日（木）
スポーツの日	7月23日（金）
山の日	8月8日（日）
振り替え休日	8月9日（月）